



脱法ハーブティーでチマメ隊 昏睡レイプ



週末の夜。出張お泊り会でチマメ隊がやって来た。
変なチーム名だが名付けたのはリゼ先輩らしい。
出張お泊り会とは一万円払ってチマメ隊が
一晩お泊り会してくれるというサービスだ。
もちろん完全に健全で猥褻が一切無い。

チマメ隊の通ってる学校はバイトが禁止で、
「小遣い簡単に稼ぐ手段って何かない?」と
マヤって子がシャロちゃんに相談した結果
謎の新業態の発足に至ったとのこと。

こんな絶対あの甘味処の店員の発案だとか
思っていたが、発案者がシャロちゃんですビックリ。
何か違和感のようなものを感じていたのだが
シャロちゃんからの紹介なので迷わず承諾した。



そんなのに一万もの大金を払う大人がいるの？
とチマメ隊は半信半疑だったようだが美少女を
三人、十時間拘束して一万円ならむしろ安い。
チマメ隊は一人あたり二千元しかもらえず
残り四千元はシャロちゃんの取り分となるが
彼女らにとっては二千元でも十分な額らしい。

ちよつと前の自分ならば女の子を家に呼ぶのに
とても緊張しただろうが、最近仲良くなった
リゼ先輩を家に呼んだりしてることもあって
そこまで緊張しないで済んでいる。

そもそもチマメ隊は見た目が■学生っぽいので
元から緊張するような話ではないのだが。
あれでリゼ先輩の三つ下とか信じられない。
たった三年でそこまで成長するとは思えない。



お泊り会の二日前。自分の頭の中でチマメ隊はもはや完全に■学生扱いで今時の■学生女子の好みってなんなんだろうとか考えていた矢先、シャロちゃんから援交のお誘いのメールが来た。

自分は貧乏なシャロちゃんが援交しなくても済むよう毎月一万円シャロちゃんに貢いでる。なのにこんな援交のお誘いが来るといふことはシャロちゃんからのお礼の気持ちに違いないと浮かれたのも束の間、話の内容に愕然とする。シャロちゃんの話は援助の要求とかじゃなくて性犯罪の教唆とか幫助とかそういう類だった。マヤとかいう生意気な小娘を辱めて欲しい。シャロちゃんはそう言っつて、ハーブティーとハーブ入りのクッキーを手渡して来た。



ハーブティーとクッキーは自分へのプレゼント
……ではなくて、チマメ隊に使えとのこと。
クッキーは食べると数分後に寝てしまう。
ハーブティーは眠りを深くする効果。
ハーブは全て自家栽培のものらしい。

ココアで何度も実験したから効き目は保証すると
言ってたが、ハーブをココアに混ぜると？

まるで意味がわからない。後で判ったことだが、
ココアとは人名のことだったらしい。紛らわしい。

ハーブの効能は二回目以降は弱くなるので

確実に一回で成功するように念押しされた。

どうやって断ろうかと迷ったが、シャロちゃんの

尋常ならざる執念に押し切られてしまった。

マヤっ子にはシャロちゃんに何したんだらうか？





シャロちゃんの話によると、シャロちゃんの前で
リゼ先輩の胸をいやらしく揉みしだいたという。
「リゼっておっぱいおっきーよなー」
「何食べればそんなに大きくなんの?」
そんな軽いノリでシャロちゃんに当てつけるように
リゼ先輩に対してセクハラを繰り返してたらしい。
で、さらに腹立たしいことにリゼ先輩もマヤって
クソジヤリに対して怒ったりしなかったくせに、
シャロちゃんもリゼ先輩の胸に触ろうとしたら
やめろと拒絶され凄くショックだったと。
おそらく間が悪かったんだらう。
リゼ先輩は気前よく胸触らせてくれるけど
執拗に触っていると急に怒り出したりするし。
もしくはシャロちゃんの目付きが怖かったのか。





缶コーヒーをグビグビ飲みながら語ってるうちに急に泣き出すシヤロちゃんをなだめながら、リゼ先輩にシヤロちゃんにも胸さわらせてあげてと頼み込めばなんとかなるだろうかと考えた。だが、それも関係バレのリスクがヤバすぎる。

リゼ先輩が胸揉まれただけでここまで取り乱すってことは、自分がリゼ先輩にそれ以上のことしちやったことが万が一シヤロちゃんにバレたら一体どうなるのか想像できない恐怖に戦慄する。

……と、こんな感じでシヤロちゃんに逆らえず、畏にハメる準備をしてチマメ隊を迎えたのだがいざという場面になって重大な問題が発覚した。マヤっていつのは、この三人の中の誰なんだろう？



一応、チマメ隊には自己紹介してもらった。

「私のことはリゼって呼んでくれよなー!」

「あ、じゃあ、私はシャロで」

「二人とも先にずるいです。えと、私は「三……」

じゃなくてチヤでお願いします」

なんか聞き覚えあるような名前が並んでいる。

三人とも偽名を名乗ってくるとは思ってなかった。

たしかチマメ隊というの三人の本名が由来らしい。

であれば左から順番にチ、マ、メではなからうか。

おそらく真ん中こそがマヤである可能性が高い。

しかし即断は禁物である。

後でシャロちゃんに確認とればいいと思ったが

前に着信拒否されたままだったみたいで、

こちらからは連絡できない状況である。



焦って挙動不審にならないように心がけよう。

まずはシャロちゃん手製のお茶とお菓子だ。

「あ、シャロさんのお店の品ですね」

「ダメだよチャちゃん。シャロは私だよー？」

それらはシャロちゃんがお店の機材を使ってラッピングしているので、あたかもフルールで購入した品々のように見える。

ご丁寧にクッキーはハーブ抜きも用意されてる。

見た目は一緒だ。自分も同じ物を食べれば

クッキーを警戒されないだろうという配慮か。

ハーブティーは漢方薬を煎じたような匂いだがこれはリラックス効果のあるハーブティーと、美容と成長促進に効くハーブティーをブレンドしたものらしいと説明したら三人とも我慢して飲み干してくれた。これで第一関門クリアー。



妙な味のお茶を飲みながらチマメ隊が眠るまで
どんな話題で時間潰すか考えていた矢先、
「なー、なー？ おっさんってばこんなのに
一万も払って何が楽しいの?」
自称リゼから不躰けな質問が飛んできた。
おっさんって歳にはまだ早いのだが。

「フヒヒ」。おっさんはね、リゼちゃんの匂いが
染み付いたお布団で寝るのが大好きなんだ」

……あれ？ 今、俺は一体なにを口走った？
どう返答するか迷う前にわけのわからんことを
喋っていた。実際、リゼ先輩の汗やらが付着した
シャツやタオルとかはすぐに洗濯しないで
その日はそれにくるまって寝たりするけども。
これは人に（特にシャロちゃんにはいろんな意味で）
絶対に知られたくない秘密である。

ティーカップを持った手が震える……。
リラックスする効果があるといってたが
もしや、このマジックハーブティーには
ガンギマリな成分が含まれている？

「なるほどー。じゃあ三人で布団に
寝転んでやるからチップ弾んでよー！
裸になってくれたら一人千円だ」
「オツケーー！」

即答だった。他の二人もなすがままに
自称リゼによって服を脱がされていく。

このハーブティーは危険だ。自分でも
判断力が低下してるのを感じられる。
変な後遺症や依存症とかないか
不安になってくるレベルだ。





「男の人の前で裸になるのって緊張する……」

ドキ

ドキ

An anime-style illustration of three young women in a bathhouse. The central figure is a girl with short, light blue hair and large, bright blue eyes. She is nude and looking directly at the viewer with a neutral expression. To her left, a girl with short reddish-brown hair and red eyes is looking towards the blue-haired girl, her hand near her face. To the right, a girl with dark blue hair and large yellow eyes is looking towards the viewer. All three are wearing light green towels. The scene is set in a bathhouse, with steam or water droplets visible in the air.

「エッチな目で見ないでください」

An anime-style illustration of two young girls in a bath. The girl on the right has short, dark blue hair and large, expressive yellow eyes. She has a surprised or excited expression with her mouth open. She is nude, with her arms raised and hands clasped behind her head. The girl on the left has long, light blue hair and blue eyes. She is also nude and looking towards the right girl. The background is a simple, light-colored wall.

「寝るだけでお金もらえるとか楽勝じゃん！
この仕事、私に向いてるかも」

「他になんかして欲しい」とある？
エロい要求以外なら何でもいいよー！」


ぱんぱん



「あの……ちよつと眠くなってきたので
もうっパジャマに着替えていいですか？」

むっ



A blue-haired anime girl with large breasts and buttocks is shown from the back, looking over her shoulder. She has a slightly embarrassed or shy expression. The background is a simple, light-colored setting with some green foliage.

「なんだよシヤロ、まだ夜は長いぞー！
早く寝ちやったら稼げないじゃんか。
なあ、チ……名前なんだっけ？
チヨもそう思うよな？」



さっきまでデーンデーンマックス
だったのが急に静かになった。

ズズズズ...

ずるー

ハーブ☆クッキーが
効いてきたようだ。





着替える途中で電池が切れたように
倒れていた自称シャロちゃんを運ぶ。

ぎゅっ

不可抗力を装って胸を揉んだりしたが全く目覚める気配がない。




まず気になることがあるので
先に確認をしておく。





ぐっ

ぽあ



他の二人も同様にチエツクしたが三人とも処女だった。
まあ、なんとなくそんな気はしていたが……。

非処女ならマヤって子以外にも気軽に
悪戯できたのだが、ちよつと残念だ。

一旦、チマメ隊は放置で三人の鞆を漁ることにする。
ストーカーとしての本能が俺を突き動かしている
とかじゃなくて単純に身元確認が目的である。

まあ、偽名を使ってた時点で予想はしていたが
個人情報をも特定できる持ち物は見当たらない。
代わりに催涙スプレーやスタンガンといった
護身グッズがごろごろと。それも軍用仕様のが。

催涙スプレーは失明の危険がある強力さで室内では
自爆の危険から使えないとリゼ先輩が言ってた代物。
針を射出して致死性の電流を流すテイザーガンやら
どれも民間人が持ってちやダメなやつばかりだ。

以前、リゼ先輩が軍のキャンプに出稼ぎに行こうと
計画していて護身グッズを準備したが無駄になったと
語っていたが、それらがチマメ隊に貸与されたいらしい。




対象の人命を一切考慮していない過剰な装備からチマメ隊はリゼ先輩から相当心配されている様子。

いざとなつたらマヤが誰なのかりゼ先輩に尋ねようと考えていたが、もしチマメ隊がお泊り会してる場所が過去に援交歴のある男の家だと気付かれたりしたら即、武装したりゼ先輩が突入してきそつた。

素っ裸で意識のないチマメ隊の姿を確認した途端、無警告で発砲してきてもおかしくない気がする。リゼ先輩の家は警察やヤクザより怖いお家なので人間一人を行方不明で処理するのも容易だろう。リゼ先輩に聞くのはナシだ。マヤを特定するのは諦めて、もう三人まとめて犯してしまうしかない。


後で考えるとまだ他に手段はあったが、この時はハーブティーの影響で冷静じゃなかったらしい。





とはいつても、いざとなると気が引ける。
シヤロちゃんのリクエストは中出し。
証拠写真の提出を求められているが
写真をでっちあげればいいのだ。

なら奥深くまで挿入しなくてもいいはず。
先っぽだけならレイプにならないだろう。
避妊具なしで女の子とエッチできるのは
男性経験がなかったりゼ先輩を騙して
生ハメを強要した時以来だから久々だ。



ロリすじを押し開き粘膜の感触を味わい
遠慮なく先走り汁を塗り込む背徳感。
何だか新たな性癖に目覚めそうだった。

どろっ

処女膜を破らないギリギリのところで押し込み
中出しすることでミッションクリアー。残り二人。
これなら楽勝だ。この時はそう思っていた……。



二人目も同じように先端を出し入れするが
気持ちいいのにさっきと違ってすぐにイケない。
この子は成長したら凄い美人になりそうだ。
できれば三年、いや五年は成長を待ちたいと
本当に思うが今はそんな時間はない。





ぎゃん

最後には肉棒の半分以上が埋没し蓄積された劣情を注ぎ込んだ。そこまで深く挿れる必要なかったのに無意識にエスカレートしてしまった。

処女膜の抵抗も無視して少しづつ少しづつ快感を得るためだけに抽送を深めていく。苦悶の呻きが漏れるたび無防備な美少女が抵抗できず陵辱されてる罪悪感に興奮する。

ぢゅぽ

出血が痛々しい。やり過ぎたと後悔する。
出す瞬間、つい深く挿入してしまったため
大量の精液が奥に残ったまま流れてこない。
この子を孕ませるのが目的じゃないのに。



ようやく最後の一人なのだが、勃起が中途半端で
入り口の狭い穴に無理やり捻じ込むのに苦労する。

前の二人に調子の上り過ぎて出し過ぎたのが原因か。
ペース配分というのを全く考えていなかった。



この子はシャロちゃんやりゼ先輩と違って
援交とか売春とか縁がなさそうだから
この子とセックスできる機会はこれが
自分の人生で最初で最後に違くない。

そんなこと考えたら、この子の初めてを
奪って自分の痕跡を刻みつけたいという
下衆な欲求がムラムラと沸いてきた。

グ
グ
ッ



亀頭が完全に呑み込まれたところを
忘れずに記念撮影。

最初はなるべくレイプせずに済ませる方法が
ないかと考えていたのが今は遠い昔のようだ。

まじやん



「この子がマヤである確率は一番低そうだし見逃してあげることだって出来ただろう。」

もうシャロちゃんの命令も関係なくこの行為は完全に自分の意志だ。





んん

ガッ



ずぶ





んんん

すい



出会ったばかりで名前も知らない女の子の処女を
卑劣な手段で奪ったことに大きな満足感を得る。
同様の性犯罪を二連続で犯した直後でなければ
既に絶頂に達していてもおかしくない心地良さだ。

それでも三度目の膣内射精に至るのは容易でない。
相手を気遣わず乱暴にすれば簡単だが、シヤロちゃんより
小柄なんだから負担はかからないようにするべきだろう。



ふあっ

あーっ

あーっ



ロリ相手の背徳感やレイプの罪悪感も麻痺しつつある。
ここは趣向を変えて、リゼ先輩と初めてした時みたいに
手を繋いで恋人同士っぽい雰囲気のをプレイを演出する。

さらに目を閉じ、シヤロちゃんとの初めてを思い出すと
肉棒が脈打ちながら、ただでさえサイズの合わない
狭過ぎる膣内を内側から圧迫し密着感が増していく。



自称シャロちゃんを強姦真つ最中な現実
は忘れ、今は妄想の中のシャロちゃんのこと
だけ考える。眠っている女の子を高級ラ
ブドールに見立てた贅沢な自慰行為。
処女の感触も完全再現だ。

愛情を確かめ合うように身体を重ねる。

現実には叶わない、相思相愛の初体験。

本物のシャロちゃんはガチレズっぽい上、

たった一万五千円で処女捨てちゃったし。



初めての挿入で童貞卒業した時もシャロちゃんは嫌々セックスしてるといっつのを隠そうともせず、思いつきり抵抗されてシャロちゃんを押さえつけるのが大変だった。

初体験はこんな風に抵抗せず受け容れて欲しかった。

あの時は約束のゴム付けずに無断で無理やり

生ハメしちゃったのもいけなかったんだらうけど。





「ハアハア、シヤロちゃん愛してる！結婚してー！」
腰を小刻みに動かかし肉棒を押し付けながら
無意識のうちにキモい台詞を叫んでいた。

みちっ

ズググ

ぬちゅ

あのハーブティの毒が抜けきってないらしい。
こんなこと誰かに聞かれたら死にたくなるほど
恥ずかしい独り言だ。



ぽっ

みちっ

はぁ

はぁ

ズキッ

ぬちゅ

目を開けたら、眼の前の女の子と目が合った。


年下の好きな女の子の名前を口にしながら一人でしてるところをその子の知り合いに目撃された。

最悪だ。シャロちゃん本人にバレたら自殺モノである。

めちやくちや気まずいなんでもんじゃないぞ。

いや、それどころじゃない緊急事態だが。





硬直したまま互いに見つめ合う時間が経過する。
寝ぼけてた状態から焦点がハッキリしてきて
次第に自分たちが裸でセックスしていること、
寝ている間に処女を奪われたことを認識する。

シャロちゃんはレイプしても絶対に目が醒めないと言っていたけど、実際に試したことはなかったはず。これでめでたく自分も性犯罪者の仲間入りである。



はぁ...

はぁ

はぁ?

はぁ

はぁ



!!!

びしょ!!!

ぎゅ

びしょ

びしょ



社会生命が終わるかもしれないという危機的状況下。
雄の生存本能が最期に自分の血統を胎内に残そうと
穢れを知らない無垢な子宮へ精が注ぎ込まれていく。

まだ生理は来てないらしいので全て無駄撃ちなのだが
この子からすれば、変態が求婚しながら全力で自分を
孕ませようとしてくる悪夢は一生涯のトラウマだろう。



あはは

や

あは

ギョッ

めんこ

どぶっ

まだ意識がハッキリしてるわけじゃないだろうけど
レイプされたショックで茫然自失となっている様子。

あ……

できれば膣内射精後の余韻に浸りたいところだが
今はそれどころじゃないので、ゆっくりと引き抜く。

ヌルッ

はあ

はあ



いつ泣き出されるかヒヤヒヤしていたのだが
泣き寝入りならぬ狸寝入りを選んだらしい。

目を閉じて寝たフリしてるうちに証拠写真を撮影し、
なるべく刺激しないよう丁寧に身体を拭いた後は
消灯して自分も一緒に寝ることにした。

ぐす、

どろっ





そして朝になり、眠りから目覚めるチマメ隊。

「なんか寝違えてクビ痛い。この仕事向いてないかも……」

ぽく

中出しの痕跡は写真を撮った後に証拠隠滅して
完全犯罪ならぬ完全性犯罪の成立である。





「なんで私たちハダカで寝てしまったんでしょっか？
寝る直前の記憶がハッキリしません……」

もじ

深く挿入しすぎて処女膜が破れてしまったものの
自分の身に何があったか気付いてないのでセーフ。

もじ





「この子に騒がれたら終わりなので生きてた心地しなかったが、この場は黙っててくれる模様。後で「機嫌とらないと。」

「あの、わたしの名前はシャロじゃなくて本当は……
いえ、なんでもありません」

かあっ





……その後。

依頼達成の写メをシャロちゃんに送ったがダメ出しされてしまった。
仕方ないのでマヤ(と判明した子)をもう一度呼び出す「と」……。

